２０２３年１２月

敬愛します諸教会の牧師先生、兄姉の皆様

今冬のサンクトペテルブルグは例年よりも寒く、また雪が多いです。依然として政情は安定しませんが、市内には全くその気配がありません。クリスマスのデコレーションがきらびやかで、買い物客でにぎわっています。一人でも多くの方が、救い主イエス様を心にお迎えし、本当のクリスマスをお祝いできますように祈っています。皆様の尊いお祈りとおささげものを、心より感謝いたします。

昨年の侵攻以来、宣教地で日本からのサポートを受け取ることができないので、資金調達と、両親の介護のために、９月下旬に一時帰国しました。母は６月から血管性認知症で治療を続けていましたが、８月中旬に脳梗塞で入院しました。退院後、要介護１から一気に要介護４の認定となり、諸手続きが必要でした。現在、母はデイケアや様々な介護サービスをいただきながら、父が助けています。その父も要支援１を受けながらですので、守られますようにお祈りください。
そして、１１月１６日に宣教地へ向かいました。経由地のヘルシンキ空港に着いた１７日に、ロシアとフィンランドの国境が閉鎖されるので、サンクトペテルブルグ行きの高速バスがなくなるというメールが日本総領事館から入っていました。しかもそれはたった９時間前に送られてきたもので、事前に知りようもなく、私が予約していた高速バスは、最終便から２番目でした。神様は、私をこの場所に今も必要とされておられるのだと、気持ちを新たにされたしだいです。

教会では、コンスタンチン兄のバプテスマ式が行われました。彼は２年半ほど前に、当教会のメンバーに誘われて来会されました。昨年の夏に受浸予定でしたが、家族の反対で教会から足が遠のいていました。ある時、部分動員で召集されたお兄さんから何ヶ月も連絡がないというので、みんなで祈りました。すると、その翌週にお兄さんから連絡がきたのです。彼は、祈りにこたえてくださる神様を体験し、兄姉の祈りに励まされたことで、主に従う者として新たな歩みを踏み出すことができました。私たちも神様の祝福を見させていただき、感謝にあふれました。

今年度のインターナショナルアカデミー（ＩＡ）は、３５人（８ヶ国）の生徒で、その半数は宣教師の子女です。教育省への書類問題が続き、日本語を含む外国語クラスを始めることができません。この新しいカリキュラムは、ＩＡにさらに生徒が導かれ、キリストに出会うことが目的です。どうぞお祈りください。
（写真左：８月の始業式）

在主
ロシア宣教　佐藤葉子

暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、
死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上がった。 マタイ4:16